

(仮称) 横浜都心部シェアサイクル事業の実施に向けた 市場型サウンディング調査の実施結果

〈結果概要〉

1 対話期間

令和4年10月24日(月)～令和4年10月28日(金)

2 参加事業者

12事業者 (内訳) 対象1:3者、対象2:4者、対象3:5者

対象1:シェアサイクルの運営事業者等、主体的に事業提案が可能な法人等

対象2:コンソーシアムの構成員(共同事業提案者)として提案の可能性がある法人等

対象3:事業に対し協力、連携の可能性がある法人等(公募には不参加、事業協力のみ)

3 実施概要

(1) ねらい

横浜市が考える将来像を具現化するため策定した「(仮称)横浜都心部シェアサイクル事業実施方針(素案)」を基に、事業に興味のある民間事業者等の皆さまと幅広く「対話」(サウンディング調査)を実施し、事業内容や公募条件の整理に役立てる。

(2) 質問項目

全ての参加者にお伺いしたい内容(対象1～3)
○素案3(1)における【視点1】「まちづくりとの連動による事業の成長」の実現に向けて、シェアサイクル事業とまちづくりが連動・連携するための可能性、アイデア
○素案3(1)における【視点2】「他の交通モードとの連携による端末交通としての定着」の実現に向けて、シェアサイクル事業と公共交通が連携し、相互に利用を促進する可能性、アイデア
○素案3(1)における【視点3】「横浜らしいシェアサイクルの確立」の実現に向けて、横浜らしい象徴的な交通手段となるためのアイデア
○シェアサイクルの展開により蓄積された移動データの有用性と活用アイデア
○素案3(3)「想定される事業スキーム」において示す『公民連携及びコンソーシアム提案による新たなスキーム』について
○その他「(仮称)横浜都心部シェアサイクル事業」に対する提案、期待すること等
シェアサイクル運営事業者等にお伺いしたい内容(対象1のみ)
○素案1(4)「横浜都心部コミュニティサイクル事業」における主な課題の解決アイデア

4 対話での主な意見

○素案3（1）における【視点1】「まちづくりとの連動による事業の成長」の実現に向けて、シェアサイクル事業とまちづくりが連動・連携するための可能性、アイデア

【対象1】

- ・MaaS事業者等との連携によって、来街者の動向など複数のデータから得られる情報を分析し、顧客満足を得られる施策を展開することで、地域活性化に貢献できる。

【対象2】

- ・「まちづくりとの連動」は、横浜都心部の地域特性に見合ったコンセプトと捉えており、実施方針の方向性に賛同する。
- ・デベロッパー、商業施設など、他の事業者を巻き込んでコンセプト実現することで事業だけでなくまちの価値が向上すると考える。
- ・事業の成長のための要素として①周遊性の向上、②混雑平準化、③インバウンド④データ活用をキーワードに事業を展開することが重要だと考える。

【対象3】

- ・公共交通+自転車での来訪・周遊を促進するなど、脱炭素に関連するキャンペーンを実施する企業との連動によるまちづくりは、実施可能ではないか。

○素案3（1）における【視点2】「他の交通モードとの連携による端末交通としての定着」の実現に向けて、シェアサイクル事業と公共交通が連携し、相互に利用を促進する可能性、アイデア

【対象1】

- ・MaaS事業者との連携により、市民及び来街者が最適な経路や交通手段を選択することができるようサービスと移動手段を提供したい。
- ・MaaSアプリと連携しているため、鉄道とシェアサイクルのシームレスな利用環境を構築できる。
- ・他都市において、鉄道のみならず多様な交通手段との相互利用に向けて連携を実施している。
- ・地元鉄道事業者等と連携したシェアサイクル利用者向けの限定プランを検討できる。

【対象2】

- ・鉄道事業者やバス事業者と連携し、鉄道駅やバス停の直近にサイクルポートを整備することを考えたい。
- ・駅や電車内広告やバス停の広告等により、新たな利用シーンを広く認知・浸透させることは有効と考える。
- ・地域の事業者が運営する観光滞在施設やアクティビティの予約決済も一元化していくことで、相互誘客、シェアサイクルの利用促進につなげていきたい。

【対象3】

- ・鉄道の乗車券連携や、交通定期券所有者を対象としたサブスク利用に着目して、相互利用の促進を図ることは可能と考える。

○素案3（1）における【視点3】「横浜らしいシェアサイクルの確立」の実現に向けて、横浜らしい象徴的な交通手段となるためのアイデア

【対象1】

- ・先進的なイメージの横浜都心部では、3輪・4輪、低速で座りながら利用できる小型の電動モビリティの導入は今後必要になると認識している。
- ・今回の公募でもシェアサイクルだけでなく、多様なモビリティの導入を可能としていただきたい。

【対象2】

- ・まちの回遊性向上のため、シェアサイクルに加えて多様なモビリティを導入していくことも必要と認識している。
- ・親水空間、公共空間、走行環境（空間）それぞれを有効に使うことで、面的に移動サービスを拡充できると考えており横浜らしさを打ち出せるのではないか。

【対象3】

- ・観光客やオフィスワーカーがスーツなどで乗ってもマッチするような横浜らしい自転車デザインを導入すると良いと考える。
- ・横浜都心部で取り組まれている水上交通との連携は、横浜らしさにつながると考える。

○シェアサイクルの展開により蓄積された移動データの有用性と活用アイデア

【対象1】

- ・移動データ等は、横浜都心部エリアの有効なポート設置個所の分析及び最適な再配置業務等に活用できると考えている。また大学や専門学校の研究素材としても活用することができるのではないか。
- ・移動データ等の活用は、自転車走行空間の整備、充実に役立つと考える。

【対象2】

- ・移動データ等を活用することで、他のモビリティの展開可能性を検討することができる。

【対象3】

- ・利用者の動きをデータ化し、まちのデータと相互に活用することで付帯事業化できないか考えている。

○素案3（3）「想定される事業スキーム」において示す『公民連携及びコンソーシアム提案による新たなスキーム』について

【対象1】

- ・デベロッパーや公共交通機関を運営する企業と連携を進めていきたい。
- ・コンソーシアム形成における幹事は事業者では難しいので、つなぎ役を市にも協力願いたい。

【対象2】

- ・シェアサイクル事業者と連携し、MaaS提供者として、役割分担しながら提案に参画したい。
- ・エリアの価値を上げる意図で1社単独ではなく、複数社での事業参画は可能性がある。
- ・事業に参画する以上マネタイズが大事と認識しており、今後検討が必要。

【対象3】

- ・都心部の観光、交通において、産学官の連携により事業の成長、地域貢献の一助となる。

○その他「（仮称）横浜都心部シェアサイクル事業」に対する提案、期待すること等

【対象1】

- ・横浜はサイクルポート設置にあたって条例等の縛りが厳しいと考える。ポートの開拓をするときに建物の附置義務・港湾地域への出入りなど、条例によって苦戦をしているので緩和措置に期待したい。
- ・駐輪場附置義務の緩和や、手続きの簡略化などの、ポートを設置しやすい環境整備支援を市に求めたい。

【対象2】

- ・事業期間が短いと投資回収の問題は発生するので事業期間は長いほうが良いと考える。

【対象3】

- ・MaaSを通じて、シェアリングサービスを含む移動手段をシームレスに結び付けることを期待する。
- ・郊外部で展開されているシェアサイクル社会実験とエリアやブランドを跨いだ相互乗り入れができるとういと考えている。

シェアサイクル運営事業者等にお伺いしたい内容（対象1のみ）

○素案1（4）「横浜都心部コミュニティサイクル事業」における主な課題の解決アイデア

【対象1】

- ・利便性を向上し、誰でも利用できるシステムとするため、LinePayやPayPay等による決済手段の拡充も検討できる。
- ・車両再配置作業については、これまでの蓄積されたデータやノウハウを活用することに加えてAIを活用した再配置システムを導入したいと考えている。